

2026年3月期 決算説明会 質疑応答（要旨）

開催日： 2026年5月13日（水）

出席者： 代表取締役会長兼CEO 安藤 之弘
代表取締役社長兼COO 瀬田 大
取締役副社長統括本部長 山中 雅文

Q **すでに実施済み、または今後実施予定の手数料の改定と、今期の計画への織り込み状況について教えてください。**

A <山中>

九州会場と横浜会場での手数料の改定を織り込んでいます。九州会場はすでに手数料の改定を実施済みで、横浜会場は7月から値上げの予定となっており、これらを含めた手数料単価値上げ全体で約5億円の増収を見込んでいます。また、CISについては、月額利用料を5,000円値上げしており、これにより年間約18億円の増収となります。

Q **1台当たりの落札手数料が上がっている一方で、出品手数料と成約手数料が下がっている背景について教えてください。また、出品手数料と成約手数料の改定の予定について教えてください。**

A <山中>

ボリュームディスカウントが適用される大口出品店の出品台数が増加したことが、1台当たりの出品手数料と成約手数料が下がっている主な理由となります。九州会場と横浜会場では出品手数料と成約手数料の値上げも行っており、会場ごとに値上げが可能な会場において、改定を実施していきます。

Q **2026年3月に東京会場で発生した入庫制限の背景と、今後同様の機会ロスが発生するリスクについて教えてください。**

A <安藤>

入庫制限については、東京会場だけでなく、HAA神戸、九州会場においても実施しており、保管スペースの整備が急務であると考えています。ただし、立体駐車場を建設するためには、工事期間中に減る保管スペースを補うだけの土地を隣接地で確保する必要があります。立体駐車場については、東京会場、HAA神戸、名古屋会場で建設を検討しております。その中で名古屋会場は、隣接するR名古屋会場と保管スペースを共用しながら運営していますが、さらに3,000台程度の立体駐車場が必要だと考えています。

Q **決算説明会資料18ページには、増収要因としてCISの増収が19.8億円と記載があり、この中に月額利用料値上げ分約18億円が含まれていると思いますが、それ以外のCISの増収要因について教えてください。**

A <山中>

18億円以外のCIS増収は、CIS会員数の増加によるものです。

Q 手数料単価の値上げ全体で約5億円の増収は、決算説明会資料18ページの増収要因のどこに含まれているか教えてください。

A <山中>

決算説明会資料では、金額影響の大きい順に記載しているため表示されていませんが、手数料単価の値上げ全体で約5億円の増収を見込んでいます。

Q CIS 関連の手数料の値上げについては、会員数増に伴うものなのか、会場外の手数料の増加が織り込まれているのか教えてください。

A <山中>

基本的には、現車会員が増加することによってCIS会員も増加するという前提のもと、1.5億円の増収分の計画をしています。

Q 例えば業者間販売など、オークション会場を保有しない外部サービスの種類と取扱量の動向について教えてください。

A <瀬田>

オークション会場を保有しないサービスの1つに「共有在庫サービス」があります。これは、各小売店が自社在庫を登録して、他の業者に販売する業販になります。代表的なサービス提供者としては、株式会社オートサーバー、株式会社オークネット、株式会社ネクステージが挙げられます。当社としては、これらの「共有在庫サービス」は換金性が低く、オークション業界にとって脅威であるとは考えていません。

以上